

■消化器外科領域：研究プロジェクト 進捗状況一覧

申請年度	申請団体	研究代表者	研究課題	ステータス	投稿先	備考
2013	日本外科学会	瀬戸泰之先生	NCDデータ活用による肥満が手術に及ぼす影響に関する調査研究	論文化	Surg Today.	Effects of BMI on surgical outcomes according to a nationwide survey using a Japanese web-based database
	日本食道学会	北川雄光先生	わが国における腹腔鏡下食道切除術の安全性評価とリスクモデルの確立	論文化		
	日本肝胆膵外科学会	宮崎勝先生	肝胆膵外科手術施設の集約化の現状と意義についての検討	論文化		1: "Validation of the Board Certification System for Expert Surgeons (Hepato-Biliary-Pancreatic Field) Using the Data of the National Clinical Database for Japan, Part 1: Hepatectomy" 2: "Validation of the Board Certification System for Expert Surgeons (Hepato-Biliary-Pancreatic Field) Using the Data of the National Clinical Database of Japan, Part 2: Pancreatoduodenectomy"
	日本膵臓学会	下瀬川徹先生	膵癌登録とNCDの膵切除に関する比較検討	NCD 解析完了		※探索的な研究課題であり、論文化するかは検討中
	日本消化器外科学会	後藤満一先生	NCD消化器外科領域とACS-NSQIPとの国際連携による医療水準向上プログラムの作成	NCD 解析完了	Medicine	Comparison of National Operative Mortality in Gastroenterological Surgery Using Web-based Prospective Data Entry Systems
	日本消化器外科学会	今野弘之先生	本邦の消化器外科手術における専門医関与、施設区分、hospital volumeからみた手術成績の解析	論文化	SURGERY TODAY	Gastric Cancer誌にacceptされ、現在、掲載の手続きを進めて頂いている。(2017/03/06)
	日本胃癌学会	円谷彰先生	胃癌手術死亡および合併症の高リスク群同定に関する後ろ向き調査研究	NCD 解析完了		
	日本内視鏡外科学会	比企直樹先生	腹腔鏡下胃切除術の安全性に関する検討 -National Clinical Databaseによる前向き調査研究 胃切除 胃全摘(胃切除と胃全摘に分けて論文化)	検収進行中 進行中	British Journal of Surgery	胃切除 胃全摘 解析結果を提示済み
2014	日本消化器外科学会	太田哲生先生	本邦の地域の医療需要を反映した専門医研修プログラムを作成するための二次医療圏単位での医療の実態把握	論文化		
	日本肝胆膵外科学会	宮崎勝先生	腹腔鏡下肝切除の安全性と普及性 ~ Propensity scoreを用いた開腹肝切除との短期成績の比較と腹腔鏡下肝切除の難易度解析を検証する~	論文化	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	Comparison of laparoscopic major hepatectomy with propensity score matched open cases from National Clinical Database in Japan
	日本食道学会	岡部寛先生	Japanese Nationwide Web-Based Databaseにおける食道切除後のリスク調整死亡率を用いた施設間格差の検討	論文化	British Journal of Surgery	
	日本胃癌学会_1	吉田和弘先生	本邦における胃癌に対する腹腔鏡下手術成績に関する後ろ向き調査研究	論文化	(胃切除) Annals of Gastroenterological Surgery (胃全摘) Springer	(胃切除) Surgical outcomes of laparoscopic distal gastrectomy compared to open distal gastrectomy: A retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan (胃全摘) Introducing laparoscopic total gastrectomy for gastric cancer in general practice: a retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan
	日本胃癌学会_2	芳賀克夫先生	胃癌手術におけるGrade別術後合併症予測モデルの開発	論文化	第20回国際膵臓学会・第6回アジアオセアニア膵臓学会・第47回日本膵臓学会大会 演題登録済み Japan Pancreatic Cancer Registry of Japan Pancreas Society: Comparison between the conventional database and National Clinical Database (NCD)	Authorshipについて協議中 2017/8論文投稿中
	日本膵臓学会	下瀬川徹先生	従来の膵癌登録とNCD膵癌登録の比較	検収完了	学会発表	
	日本内視鏡外科学会	万代恭嗣先生	日本内視鏡外科学会技術認定制度における技術認定レベルのアウトカム評価	進行中		学会側：医籍番号など関連するデータの紐付け作業の実施中
	日本腹部救急医学会	平田公一先生	大腸穿孔手術例におけるリスク調査 ~ NCDを用いた	論文化	Medicine誌	A Comparison of Surgical Mortality from Colorectal Perforation at Different Hospitals Using Data from 10,090 Cases in the Japanese National Clinical Database (NCD)
	2015	日本消化器外科学会	森正樹先生	National clinical database(NCD)を利用した消化器外科領域における各術式における手術関連死亡率としての妥当性の検討	論文投稿中	Annals of Gastroenterological Surgery 投稿中
日本肝胆膵外科学会		宮崎勝先生	本邦における肝臓同時切除の安全性と施設volumeの及ぼす影響	進行中		解析中。
日本食道学会		松原久裕先生	NCDデータを用いたわが国における高齢者食道癌手術の現状とリスク評価	NCD 解析完了		2016/02/01: 追加解析の解析結果を提示済み
日本内視鏡外科学会		長谷川博俊先生	高齢者に対する腹腔鏡下手術の意義	NCD 解析完了		2016/02/01:解析結果を提示済み
日本外科学会		土岐祐一郎先生	National clinical database(NCD)を利用した外科領域における周術期静脈血栓塞栓症の頻度とリスク因子の同定およびスコアリングシステムの構築	NCD 解析完了		2017/9/26 Skypeミーティング
日本外科学会		長谷川深先生	NCDデータを用いた外科手術短期成績における高齢者の影響に関する研究	NCD 解析完了		追加解析 確認中

2016	日本膵臓学会	岡崎和一先生	National clinical database (NCD) を利用した膵全摘術の安全性に関する検討	進行中		日本肝胆膵外科学会様へデータ利用の許可申請中
	日本食道学会	小澤壯治先生	食道癌に対する胸腔鏡下手術の安全な普及に関する検討	進行中		2017/8/2 【進捗会議】開催予定 議題：解析結果の確認と今後の方針の検討
	日本肝胆膵外科学会	窪田敬一先生	ICGR15 分値に基づく肝予備能からみた肝切除の術式・安全性評価	NCD 解析完了		Authorshipについて協議中
	日本胃癌学会	馬場秀夫先生	NCDデータを用いた胃癌手術後合併症に対する手術症例経験数が与える影響の検討	進行中		論文化進行中
	日本内視鏡外科学会	比企直樹先生	2013 年度消化器外科領域課題研究「腹腔鏡下胃切除術の安全性に関する検討」に関する追加解析	進行中		2017/3/31 キックオフミーティング（本多先生と隈丸先生 Skypeにて）
	日本消化器外科学会	後藤満一先生	National clinical database(NCD)を利用した肝移植術後短期成績における術前予測システムの構築	論文化		AMEDに移行 2018年度よりNCDリスクモデル実装予定
	日本消化器外科学会	掛地吉弘先生	消化器癌手術における術後合併症の予後に与える影響に関する後ろ向き調査研究	進行中		追加項目の詳細について確認中
2017	日本内視鏡外科学会	赤木智徳先生	NCDデータ活用による消化器主要手術（胃・大腸・胆嚢）における治療成績に関しての検討	進行中		2017/12/19キックオフミーティング
	日本消化器外科学会	今野弘之先生	質の高い消化器がん診療の均てん化を目指した、専門医制度の評価・育成プログラム構築システムの開発	進行中		厚労科研に移行
	日本消化器外科学会	丸橋繁先生	NCD消化器外科領域とACS-NSQIPとの国際連携による、外科医療の質向上に向けた医療体制の整備	進行中		厚労科研に移行
	日本消化器外科学会	田邊稔先生	胃癌術前治療が周術期成績に及ぼす影響の解析	保留		※取り下げ予定
	日本食道学会	馬場秀夫先生	術前化学療法および化学放射線療法が胸腔鏡下食道切除後の短期成績に与える影響の検討	進行中		2017/10/5 キックオフ（消化器外科学会）
	日本食道学会	錦織達人先生	地域包括ケアシステムにおける食道切除術の提供体制の検討-NCDを利用した機能分化シミュレーション-	進行中		次回進捗ミーティング検討中。検討事項：予測モデル、先行研究
	日本肝胆膵外科学会	田邊稔先生	NCDデータを用いた腹腔鏡下切除の普及・適応拡大と安全性に関する検討	進行中		2017/8/29 日本肝胆膵外科学会より追加申請 2017/10/12 理事会承認済み。12/4キックオフ→対象年を1年分増やす。
	日本肝胆膵外科学会	中村雅史先生	本邦における膵頭十二指腸切除術と施設volumeの関係の検討およびhigh-volume centerの定義	進行中		2017/8/29 日本肝胆膵外科学会より追加申請 2017/10/12 理事会承認済み。11/1キックオフ

■消化器外科 DB推進プロジェクト

申請年度	申請団体	研究代表者	研究課題	ステータス		
2014	日本消化器外科学会	竹末芳生先生	本邦の消化器手術における術後肺炎発症リスク因子の解析	論文化	J Antimicrob Chemother	

■小児外科領域：研究プロジェクト 進捗状況一覧

申請年度	申請団体	課題名	研究担当者	kickoff MTG
2015	日本小児外科学会	新生児外科全国集計	八木先生 内田先生 伊勢先生	2016/2/23
2014	日本小児外科学会	急性虫垂炎に関する研究	藤代準先生	—

NCD関連：学会アニュアルレポートについて

領域／年度	ステータス
日本血管外科学会／2012アニュアルレポート	作成完了（分析結果受渡し）
日本血管外科学会／2013アニュアルレポート	作成完了（分析結果受渡し）
日本血管外科学会 2014アニュアルレポート	作成完了（分析結果受渡し）
日本血管外科学会 2015/2016アニュアルレポート	対応中（分析フォーマット確認）
日本Pediatric Interventional Cardiology学会／2013アニュアルレポート	分析終了
日本Pediatric Interventional Cardiology学会／2014アニュアルレポート	分析終了
日本Pediatric Interventional Cardiology学会／2015アニュアルレポート	分析終了
日本Pediatric Interventional Cardiology学会／2016アニュアルレポート	分析終了
日本消化器外科学会／2011-12アニュアルレポート	作成完了（2011-2012年症例）
日本消化器外科学会／2014アニュアルレポート	作成完了（2013年症例）
日本消化器外科学会／2015アニュアルレポート	作成完了（2014年症例）
日本消化器外科学会／2016アニュアルレポート	分析終了（2015年症例）
日本消化器外科学会／2017アニュアルレポート	分析終了（2016年症例）
日本小児外科学会／2011・2012アニュアルレポート	作成完了（分析結果受渡し）
日本小児外科学会／2013・2014アニュアルレポート	作成完了（分析結果受渡し）
日本小児外科学会／2015アニュアルレポート	分析終了
日本小児外科学会／2016アニュアルレポート	解析中
CVIT（J-PCI）／2013・2014アニュアルレポート	分析終了
CVIT（J-PCI）／2015アニュアルレポート	分析終了
CVIT（J-PCI）／2016アニュアルレポート	分析終了
日本心臓血管外科学会(JACVSD/JCCVSD)2013アニュアルレポート	分析終了
日本心臓血管外科学会(JACVSD/JCCVSD)2014アニュアルレポート	分析終了
日本心臓血管外科学会(JACVSD/JCCVSD)2015アニュアルレポート	解析中
日本心臓血管外科学会(JACVSD/JCCVSD)2016アニュアルレポート	解析中
日本膵臓学会（膵癌登録委員会）／予後調査2012-2015アニュアルレポート	解析中

一般社団法人 National Clinical Database
2018 年度事業計画書

National Clinical Database (以下 NCD) は臨床現場の医療情報を体系的に把握し、医療の質の向上に資する分析を行う。その結果を以て一般市民に最善の医療を提供し、適正な医療水準を維持することを目的とする。本年度は、以下の社会事業を実施する。

(1) 医療情報を集積したデータベースの維持管理及び提供について

- データ入力仕様の要望を加盟学会より受け付け、改訂を行い、収集データの改善を図る。
- ソフトウェア品質を確保しながら効率的な開発及び業務担当者間での共進化を図る。
- 登録症例データを利用した集計・分析結果を確認できるフィードバック機能を充実させる。
- 追跡調査の補助機能を継続的に開発し、フォローアップ情報の入力率向上に寄与する。
- DPC・レセプトデータを利用し、医療の質・効率性の評価・分析研究を実施する。

(2) データベースを活用した医療水準の評価及び臨床研究の支援について

- 臓器別癌登録データベース基盤の構築に向けて、症例登録システム開発及び運用を行う。
- 日本泌尿器科学会において、基盤となる症例登録システム機能の開発及び運用を行う。
- 日本形成外科学会において、基盤となる症例登録システム機能の開発及び運用を行う。
- 日本病理学会において、剖検輯報データベースの運用及びデータダウンロード機能を追加実装する。病理遠隔診断システム開発を支援する。
- 日本再生医療学会において、再生医療等製品使用データ登録システムの運用設計を支援する。
- NCD データ活用環境の構築し、自施設データ利用の運用を見直しつつ、医療品質の評価や改善に寄与する。
- 各領域の研究プロジェクト、学術調査、アニュアルレポートを通じて、臨床的検討を行う。
- 各領域での Site-Visit や Web-Audit におけるデータ検証等を支援する。
- 電子カルテシステムに NCD 症例アップロード機能を搭載するための情報連携を行う。

(3) データベースの運用による関連団体との業務連携について

- 学会専門医制度等と連携した各種申請システムの維持管理及び開発を継続的に行う。
- 学術団体向けの DB 初期開発に関するガイダンス及び Q&A 対応を推進する。
- 医療機器等の製造販売後データベース調査における信頼性担保に努める。
- NCD セミナーや各領域の学術総会または手順書などの教育コンテンツを通じて、業務連携に努める。

(4) 法人の目的を達成するために必要な関連事業ならびに業務について

- 施設会費プランの検討、施設会員登録に関する周知活動等。
- セキュリティ保持、知的財産の管理、法・倫理的課題の解決。
- 科学的根拠のもとでの行政との意見交換。研究機関登録の準備等。
- サーバープレイス、データセンター運用条件の検討等。

以上、今後も引き続き、各事業で関連する学術団体でのガバナンス強化を目指す。

23. 総務委員会

委員長 仁 尾 正 記

1. 事務局職員の就業規則類について

顧問社会保険労務士の指導を受けて、最新の法令に則り、事務局職員の就業規則類（就業規則、職員給与規定、慶弔規定、職員出張規定、職員退職手当規定、育児・介護休業規定、契約職員就業規則、ハラスメント防止規定、母性健康管理規定、定年再雇用規定、特定個人情報取扱規定）の全面的な改定を行った。

2. 事務局職員の採用について

事務局の有期契約職員2名を正職員として雇用した。

また、平成30年度中も1名の職員を新規雇用の予定とした。

3. 事務所会議室の貸与について

他学会・研究会などに事務所の会議室を貸与しているが（1時間当たり5,000円）、平成29年度は日本肝胆膵外科学会、日本消化管学会、日本食道学会、日本胆道学会、日本小児外科学会、日本肝臓学会、日本呼吸器外科学会、日本 Acute Care Surgery 学会、肺移植関連学会協議会、補助人工心臓治療関連学会協議会、産業技術総合研究所、および各種厚生労働科学研究班会議など、延べ28件の申込みがあった。

なお、事務所が入居している世界貿易センタービルの建替え工事が2021年1月に着工されることに伴い、2020年中に事務所の移転を行うため、会議室貸与の受付は2019年12月末までとした。

24. 将来計画委員会

委員長 森 正 樹

前年度に引き続き、「外科必修化の復活」「外科医の適正数の調査」「外科医のインセンティブ」「学術集会の在り方」の4つのワーキンググループに分かれて、それぞれの課題に取り組んだ。このうち、「外科必修化の復活」については大幅な進展があった。

1) 「外科必修化の復活」ワーキンググループ

リーダー 土 岐 祐一郎

「外科必修化の復活」ワーキンググループでは、平成32年度より開始される新たな臨床研修制度から外科を必修化に戻すため、厚生労働大臣に要望書を提出したり、国会議員有志による勉強会に参加してプレゼンテーションを行ったりするなど、様々な具体的な働き掛けを行ってきた。

その結果、「医道審議会医師分科会医師臨床研修部会」において、外科、小児科、産婦人科、および精神科の4科目が必修化に戻った（各4週間で、8週間が望ましい）。

なお、初期臨床研修の方略の詳細などは、同部会で引き続き審議が行われ、3月末には確定する予定である。

25. 選挙管理・選挙制度検討委員会

委員長 田 口 智 章

1. 平成 29 年度定時社員総会で、事業年度を跨がずに当該事業年度中に当選者が決定できるよう日程をすべて 1 ヶ月前倒し、「代議員選挙は 1 月に実施する」旨の条文変更が決議されたので、平成 30 年 1 月 16 日に代議員選挙を実施し、第 6 区、第 9 区、第 10 区、および第 22 区の 4 選挙区で厳正に開票作業を行った。その結果、348 名の代議員が選出した（欠員 2 名；任期は 2020 年 1 月 15 日まで）。

なお、経費削減のため、第 1 次および第 2 次有権者名簿をホームページの掲載だけとすることになっていたが、併せて投票を行うことのない無投票選挙区の選挙広報もホームページの掲載だけにとどめ、会員にはホームページに掲載した旨をハガキで通知した。

また、選挙広報の中に投票方法を記載するにあたり、役員・代議員等選任規則第 30 条第 1 項に基づき、投票用紙は“自書”とする旨を明記すると共に、無効票の事例として“自書でないもの”を追記した。
2. 将来計画委員会から諮問されている選挙方法の見直しについて（主に女性会員や市中病院勤務の会員が当選しにくいという指摘に対して）、まずはこれまでの経緯や、法的な制限などについて、改めて次のとおりに情報の整理を行い、他学会に調査なども行った上で、本格的な検討に着手することとした。
 - 本学会は旧社団法人から移行した一般社団法人であり、旧中間法人から移行した一般社団法人や、新たに登記した一般社団法人とは異なり、現在は 1 年に 1 度、内閣府の公益認定等委員会に公益目的支出計画実施報告を行って、種々の指導監督を受けなければならない義務を有するので、その義務から免れるまでは、指導基準から乖離した制度変更は好ましくない（→平成 30 年度中には義務から免れる見込み）。
 - 現在は会員の約 10% が女性だが、その割合と比べると、女性会員の代議員立候補者数は少ない（→今回は 3 名）。
 - 現行の地区別の選挙と並行して、全国区の実施するという案が以前に提示され、経費の観点から棄却されたことがあったが、投票のオンライン化などで大幅な費用削減が図れば、この案も再考したい（→投票のオンライン化にあたっては高齢会員への配慮が必要）。
 - 代議員ではなくても、理事長および理事会の承諾があれば、理事会や社員総会に参加（陪席）して、議論に参加することは可能である（→もちろん議決権は有しない）。

V. その他（加盟団体）

26. 外科関連学会協議会

座長 松 居 喜 郎

1. 「日本外科学会学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針（案）」について

倫理委員会作成の指針案に対して、外科関連学会協議会の加盟学会に意見照会を行ったところ、日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会、および日本小児外科学会から意見が挙げられたので、取りまとめて倫理委員会に申し送った。

2. 「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」について

平成 29 年 2 月の「人を対象とする医学研究に関する倫理指針」や「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」の一部改正に合わせて、この指針 (<http://www.jssoc.or.jp/journal/guideline/privacy.html>) の内容も改正すべきかどうかなどについて検討を行ったが、改正すべきという意見は挙げられなかった。

27. 日本医学会

評議員 大 木 隆 生

2018（平成 30）年 2 月 28 日の第 85 回定例評議員会（於：日本医師会館）における議事は、以下の通りである。

1. 報告事項

1) 日本医学会総会

●「第 30 回日本医学会総会 2019 中部」の準備状況の件

2019（平成 31）年 4 月 27 日（土）～29 日（月）に名古屋で開催される「医学と医療の深化と広がり～健康長寿社会の実現をめざして～」をメインテーマとした「第 30 回日本医学会総会 2019 中部」の準備としては、準備委員会のもと、各委員会を招集し討議を重ね、2017 年 12 月現在、下記の概要が決定された。

- ①学術講演関係
- ②日本医学会総会奨励賞
- ③展示関係
- ④その他
- ⑤事務局

2) 2017（平成 29）年度年次報告

協議会（会長、副会長；11 回）、幹事会、定例評議員会、臨時評議員会、総会あり方委員会（2 回）、シンポジウム（2 回）、シンポジウム打ち合わせ会（2 回）、公開フォーラム（2 回）、公開フォーラム打ち合わせ会（2 回）、シンポジウム企画委員会（2 回）、シンポジウム組織委員会（メール開催；2 回）、公開フォーラム企画委員会（2 回）、公開フォーラム組織委員会（メール開催；2 回）、医学用語管理委員会（2 回）、遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ（3 回）、医学分科会用語委員会、医学用語打ち合わせ

会（3回）、医師会医学賞・医学研究奨励選考委員会、加盟検討委員会、「遺伝子・健康・社会」検討委員会、「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会（3回）、利益相反委員会（2回）、3委員会合同委員会、3委員会委員長打ち合わせ会、研究倫理教育研修会、記者会見、などが報告された。

2. 協議事項

1) 2018（平成30）年度日本医学会事業計画書

協議会（12回）、幹事会、評議員会、総会あり方委員会（3回）、シンポジウム（2回）、シンポジウム企画委員会（2回）、シンポジウム組織委員会（2回）、公開フォーラム（2回）、公開フォーラム企画委員会（2回）、公開フォーラム組織委員会（2回）、医学用語管理委員会（3回）、分科会用語委員会、医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会、日本医学会加盟検討委員会3回、「遺伝子・健康・社会」検討委員会（3回）、「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会（随時）、利益相反委員会（3回）、分科会利益相反会議、雑誌編集者組織委員会（3回）、医学雑誌編集者会議（JAMJE）、研究倫理教育研修会、移植関係学会合同委員会（随時）、その他の打ち合わせ会（随時）、関連機関の行う諸行事・会議への役員の参加（随時）、などの事業計画が協議された。最後に高久史麿前会長が日本医学会名誉会長、春日雅人先生（国立国際医療研究センター名誉理事長）が第31回日本医学会総会会長に推挙されいずれも全会一致で承認された。

2) 2017（平成29年）年度新規加盟学会

27学会から申請が出され、日本再生医療学会の加盟が承認された。

28. 一般社団法人日本医学会連合

社員代表 森 正 樹

1. 平成29年度日本医学会連合加盟学会連絡協議会について

2018（平成30）年2月23日に平成29年度日本医学会連合加盟学会連絡協議会（於：東海大学校友会館）が開催された。

門脇孝副会長の開会挨拶のあと、テーマ「日本医学会連合に期待するもの」に基づいて、以下の次第に沿って、門田守人会長、並びに各部会からの報告があった。

- 1) 「開会の挨拶」門脇 孝副会長
- 2) 「日本医学会連合の目的・行動目標・実際の活動内容について」門田 守人会長
- 3) 「4領域発表」
 - ①基礎部会 座長：飯野 正光副会長
日本解剖学会 岡部 繁男（東京大学）
日本免疫学会 三宅 健介（東京大学）
 - ②臨床部会・内科系 座長：門脇 孝副会長
日本小児科学会 宮田 章子（さいわいこどもクリニック）
日本循環器学会 代田 浩之（順天堂大学）
日本糖尿病学会 宇都宮一典（東京慈恵会医科大学）
 - ③臨床部会・外科系 座長：森 正樹副会長
日本整形外科学会 山崎 正志（筑波大学）

日本消化器外科学会 瀬戸 泰之（東京大学）

日本産科婦人科学会 荻原 稔（徳島大学）

④社会部会 座長：岸 玲子副会長

日本産業衛生学会 川上 憲人（東京大学）

日本医学教育学会 小西 靖彦（京都大学）

4) 「総合討論」

5) 「閉会の挨拶」 飯野 正光副会長

2. 平成 29 年度臨時総会について

2018（平成 30）年 2 月 23 日に日本医学会評議員終了後，平成 29 年度臨時総会（於：日本医師会館）が開催された。

開会挨拶のあと，以下が報告された。

- 1) 平成 29 年度日本医学会加盟検討委員会推薦学会の件
- 2) 定款変更（案）の件

29. 移植関係学会合同委員会

代表委員 國 土 典 宏

特にありません。

30. 日本臓器移植関連学会協議会

代表委員 國 土 典 宏

第 24 回，第 25 回協議会における議事要旨は以下の通りである。

第 24 回議事要旨

日時：2017 年 4 月 15 日（土）14：00～16：00

場所：ビジョンセンター東京 5 階ビジョンホール

議事

下記について検討した。

1. 新規に 1 学会が加入して 54（43 学会＋7 研究会＋3 団体＋1 協議会）の加盟となった。（日本臨床神経生理学会）
2. 厚生労働省より，移植医療の基本方針について以下の説明がなされた。
13 年前と比較し，提供症例数が約 20 倍（年間 3 症例から 64 症例）となっている現状を踏まえ，今後の移植医療で力を入れる点として①国民への普及啓発，②臓器提供施設の体制の充実，③移植施設の体制整備が挙げられた。
また，日本臓器移植ネットワーク（JOTNW）の体制見直しと，支援の継続についても言及された。
3. 日本臓器移植ネットワークより，1 昨年に続き，昨年 1 月にもあっせんの誤り（新しいシステム（E-VAS システム）を 1 昨年 10 月に導入したが，プログラムに不具合があり移植希望患者の優先順位に誤りが

原因)があり,再発防止等に関する第三者調査チームによる提言と,提言を受けての対応策について説明された。これによる新体制となった組織図についても示された。

(提言)

- ・システム担当者の配置,PMO(program management office)の開設
- ・順位付けのみを行う部門の独立,移植コーディネーターの配置
- ・新システムはPMOの下で運用し,当面は旧システムと並行稼働期間を設けダブルチェックを行う(対応策)

- ・より精度の高いレシピエント検索システムの構築を検討・検証する部門(PMO)の設置
- ・レシピエント選定時の優先順位付けに特化した専任部門(レシピエント選定G)の設置
- ・安全管理推進室に専門の外部有識者を招聘配置

4. 規約改正(あり方)委員会より,顧問制度,代表世話人の候補者の推薦,協議会運営費・事務局の運営方法などの検討結果が説明された。

重要事項のため,後日,文章で意見を伺い,その意見をもとに今後の方向性について再検討し,次回の協議会で審議をすることが確認された。

5. 臓器提供施設体制整備委員会より,脳死下臓器提供時の課題に関して解決法を議論してきたことの説明があり,そのうち,レシピエント候補者への意思確認の早期化,5類型施設間の搬送に係る取扱いの変更,脳死判定医の自施設2名要件の緩和等については実現された(レシピエント候補者への意思確認の早期化についてはJOTNWの体制が整った時点で実施)ことが報告された。
6. 移植施設体制整備委員会より,これまで委員会にて移植医の負担軽減について検討を行ってきたことが報告された。
7. 臓器移植システム委員会より,これまで委員会にて院内コーディネーターの体制整備について各提言を行ってきたことが報告された。
8. 「臓器移植停滞に関する解決策を見出す勉強会」の説明があり,この勉強会はもともと富岡議員が臓器提供を増やすため自党内で行っていたものだが,2016年に超党派で臓器移植を考える議員連盟として新しく立ち上げられ,以降4回の総会が行われていることが報告された。
9. 移植法制定20周年イベントの説明があり,移植法制定20周年を迎え,JOTNWを中心として臓器移植推進国民大会の開催を2017年10月15日(日)に東京のイイノホールで予定していることが報告された。
10. 日本組織移植学会より,臓器移植法改正後,組織移植が減少している現状ならびに今後の方針などについて説明がなされた。また,臓器と組織のコーディネーターの一体化と,外保連へ診療報酬増額の要望提出時に本協議会より連名でご協力いただきたい旨の要望が出された。

第25回議事要旨

日時:2018年1月13日(土)14:00~16:00

場所:ビジョンセンター東京 別館 6階ビジョンホール

議事

下記について検討した。

1. 新規に5学会が加入して59(48学会+7研究会+3団体+1協議会)の加盟となった。(日本小児神経学会,日本小児神経外科学会,日本TDM学会,日本医療薬学会,日本がん薬剤学会)
2. 厚生労働省より,臓器移植法改正後の臓器移植の現状や提供施設の環境整備について以下の説明がなされた。

臓器提供数については、脳死は右肩上がりであり、また心停止を含めた全体数についても一時落ち込んだが現在は右肩上がりです。

提供施設については、いわゆる5類型施設のうち体制が整っていない施設が約半数にのぼること、また体制整備済みの施設においても0事例が約半数、1事例のみが約2割を占めている現状を踏まえ、今後の対応として、①臓器提供に係る手順整備プロジェクト会議、②移植環境整備プロジェクト会議を行っていることが紹介された。

3. 日本臓器移植ネットワークより、平成29年度の臓器提供数は111件で、そのうち76件が脳死提供であった（10年前の約6倍）。そこで、件数の増加に伴い、提供施設の整備不足などの解消に取り組んでいることが報告された。
4. 日本臓器移植ネットワークとは別組織の「日本臓器移植会議（仮称）」の設立が計画されており、後日、設立趣意書を送付予定であることが報告された。

31. 公益財団法人日本医療機能評価機構

評価委員 中村 清吾

国民の健康と福祉の向上に寄与することを目的とし、中立的・科学的な第三者機関として医療の質の向上と信頼できる医療の確保に関する事業を行う公益財団法人である。

毎月開催されている病院機能評価事業の評価委員会に参加をしている。審査は基本的な病院の構成、機能などについてサーベイヤーが調査した資料に基づき審査し、認定証の発行を行っている。

医療法の改正により、広告の規制緩和が承認され日本医療評価機構の認定書を取得したことを広告できるようになっている。

現在、病院総数8,439施設のうち認定書が発行されたのは2,179施設（25.8%）である。（平成30年1月4日現在）

医療事故情報収集等事業 第51回報告書（平成29年7月～9月）を公表した。

本年1月15日付にて医療安全情報 No.134 を公表した。

公益財団法人日本医療機能評価機構 (<http://jcqhc.or.jp/>)

32. 学会認定・臨床輸血看護師制度協議会

代表委員 矢永 勝彦

臨床輸血に精通し、安全な輸血に寄与できる看護師の育成を目的とし、日本輸血細胞治療学会が主体となり、日本血液学会、日本麻酔科学会、日本産科婦人科学会、日本外科学会（2009年12月より参加）が協力団体、日本看護協会が推薦団体となる形で、2009年2月1日に学会認定・臨床輸血看護師制度が設立。

毎年11月の土日に、1日目に講習会、2日目午前資格試験を実施。筆記試験合格後、指定施設（全国92施設）で病院研修の上、合否判定

第1回資格試験	埼玉医科大学総合医療センター	2010年12月19日（日）
	申請者136名、受験者134名、最終合格者133名	
第2回資格試験	大阪医科大学	2011年11月6日（日）

	申請者 157 名, 受験者 155 名, 最終合格者 153 名	
第 3 回資格試験	東京医科歯科大学	2012 年 10 月 28 日 (日)
	申請者 170 名, 受験者 163 名, 最終合格者 159 名 (合格率 93.5%)	
第 4 回資格試験	京都大学	2013 年 11 月 3 日 (日)
	申請者 182 名, 受験者 181 (+再受験 3) 名, 最終合格者 177 名 (97.8%)	
第 5 回資格試験	大宮ソニックシティ	2014 年 11 月 9 日 (日)
	申請者 112 名, 受験者 107 名, 最終合格者 106 名 (合格率 94.6%)	
第 6 回資格試験	大阪商工会議所	2015 年 11 月 8 日 (日)
	申請者 206 名, 受験者 199 名, 最終合格者 197 名 (合格率 95.6%)	
第 7 回資格試験	大宮ソニックシティ	2016 年 11 月 6 日 (日)
	申請者 180 名, 受験者 179 名, 筆記試験合格 173 名, 病院研修の上, 最終合格者 173 名 (合格率 95.6%)	
第 8 回資格試験	TKP 心斎橋駅前カンファレンスセンター	2017 年 11 月 5 日 (日)
	申請者 274 名, 受験者 270 名, 筆記試験合格 263 名, 病院研修の上, 最終合格者 (見込み) : 261 名 (合格率 96.7%)	
第 9 回資格試験	会場 : 関東地区で選定中	2018 年 11 月 4 日 (日)

2016 年より認定者の更新が開始され, 2018 年の更新率は 62.9% (前年 63.2%)